



ひこばえ



発行 京都教区教化委員会
共同教化部会(仮)
075-351-5260
kyoto@higashihonganji.or.jp



近江第1組 懇談会

都市化と過疎化が 混在する地

滋賀県大津市。古くから京都と東国や北国を結ぶ水陸の交通拠点となり、大津・坂本堅田は、物流の中継基地として重視され、港町・宿場町として発展した。また比叡山の門前町として、大津祭りや大津絵などの町衆文化や、三井寺、石山寺、近江神宮、日吉神社などの神社仏閣が数多く点在していることも大きな特徴の一つである。

■2月19日(月)午後2時

■近江第一組教化委員会(10名)

共同教化部会主査・部会員(1名)

駐在教導

▼大津市は琵琶湖の西南岸に位置する、南北に長い地域。県庁所在地としての大津駅周辺の市街地から、琵琶湖西部に連なる比良山地の麓、北小松にまで及ぶ。この地域にある39ヶ寺が近江第一組を構成する。この地域の教化拠点として、1600年に教如上人が創建した大津別院を抱える。▼別院周辺は大津市の中心部で、官公庁や商業施設が集まる一方、車で40〜50分離れた北小松(旧志賀町)は、2006年に大津市と合併した長閑な自然に囲まれた昔ながらの風景が広がる地域で、組内の寺院環境は大きく異なる。▼今回の懇談会のテーマは「教化の現場でおもうこと」。昨年9月に実施した事前説明の場でも共通して出ていた話題が葬儀の場に関するものであった。簡素化、縮小化が進む葬儀・中陰の在り方に関して様々な意見が述べられた。参加者の門徒の一人が発言された言葉が印象に残っている。「人間はなぜ葬儀をするのか。そのことを住職は言わねばならない。本山は、そういう住職の背中を後押しするのが仕事だと思う」

「座談会しませんか♪」

近江第一組教化委員の皆様
2023年12月
京都府教区教化委員会(仮)共同教化部会(仮) (44名 東美恵子)

座談会しませんか♪
組巡回懇談会のご案内

何のへ 大切な1年の瀬に失礼し可。
京都府教区共同教化部会(仮)の事業のひとつ「組巡回」を近江第一組で行いたい。組員様にお願いを。1/6の会議後に趣旨説明をさせていただきます。決まった型で答えるわけではありません。皆さんそれぞれが生活の中で感じておられること、互接顔をあわせて「あーだこーだ」と話場にはいれませんか。お話し合い、恐れ入りますが、組の事業などでお話し合い、恐れ入りますが、ぜひ「お集まり下さいますようお願い致します。」

合掌

日時：2024(令和6)年2月19日(月)
午後2時～4時半頃
場所：大津別院 仏間

懇談会案内チラシ

あーだこーだ

参加者の声

◆自己紹介では、門徒の方々はそれぞれのお寺との関わりが述べられた。子どもの頃にお寺で遊んだ思い出、住職から絵を習ったことなど。比較的若年層が多い地だからこそ、若い人にお寺とつながりを持ってほしいという住職・坊守の思いも語られた。

お寺や教えが少し身近になったという役割者は、「若い人の関わりを望むなら、年寄りがその椅子を空けなアカン」

◆寺の相続の限界を訴える声も聞かれた。「自分の代でお寺を終わらせようとしている話が生徒に届く」。疲弊する住職や門徒の声をどこに届けばよいのか。「本山がどこをめぐらしているのかみえてこない。議会のシステムはできていても本当にどれだけの声が届いているのか、届いた声を聞いてどうなのかを、具体的に開示するシステムが必要なのでは。教区改編より、よほど喫緊の課題に思う」

◆「住職は孤独。学習会とかなければ、お参り合いです。推進員養成講座でお寺とのつながりが少なくなってきたと思う。相談できるということが安心感になる。お寺自体が、そういうつながりをつむいでいく存在かと思う」来年度の同朋の会推進講座実施に向け、現在スタッフを募集中のこと。

雑感

部会員・駐在を除けば、お寺をあずかる方5名、門徒さん5名の参加だった。

最初の自己紹介の時点で、すでに座談会として進んでいて、思っていることを一生懸命話して下さっているお姿が印象的だった。参加者みんなが「お寺のことをおもう」という一点において共通しているのを感じた。お寺に関わるきっかけづくり、場を開いていくということが大切なのだらうと、あらためて思った。

今回の会所、大津別院で開かれている同朋会や法座などでお見かけする門徒さんもおられ、お手次寺・住まいのお寺にとどまらない出会う機会を、別院を介してもてやることはあたりまえでなかったとあらためて気づかされた。

親しみをもって話せるようになり、そしてまた仏さまの教えを聴く場にも座ることができればいいなと思う。

近江第一組唯傳寺
東美恵子

